

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和7年5月26日(月) 13:30～15:30
- 3 開催場所 恵那高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長 副 会 長 委 員	伊藤 勝彦 鎌田 基予子 秋山 浩司 新井 麻美 阿部 伸一郎 岡田 庄二 大崎 大地 西尾 新 蜂谷 明子 本多 京子	恵那市議会議員 元中学校長 元恵那市教育委員 東海神栄電子工業株式会社代表取締役社長 恵那くらしビジネスサポートセンター 本校同窓会会長、セントラル建設(株)社長 恵那市教育長 (欠席) 本校PTA会長 (欠席) 恵那市立恵那東中学校長 蜂谷医院医師 (欠席) 本校卒業生
---------------------	---	---

学 校 側	森岡 孝文 永瀬 雅彦 丹羽 静 粥川 責也 渡瀬 佳吾 林 正幹 石原 泰三 野村 毅 佐々木俊哉 原田 健	校長 事務長 教頭 教務主任 生徒指導主事 進路指導主事 保健主事 探究企画部長 探究理数科部長 研修主任
-------	--	--
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 授業参観・施設見学
 - ・対話的な授業やICTを活用した授業を参観した。
 - ・木質化した視聴覚室を中心に施設の見学を行った。
 - (2) 令和7年度学校経営計画について
 - ①学校経営②教務部(含む研修部)③生徒指導部④進路指導部⑤保健厚生部⑥探究企画部⑦探究理数科部

- ・本校の教育活動について今年度の学校経営計画について説明を行った。

意見 1 : 本校の魅力をあらゆる方法で発信してほしい。地域の情報誌に掲載することで、高齢者や地域にも情報が伝わるようにするとともに、本校の同窓生にも情報が伝わりとよい。我々も口コミで本校の活躍を発信していきたい。

⇒本校のホームページを更新するとともに、同窓会のホームページにもリンクし、情報が伝わりやすいようにしているところである。また、本校の生徒会がInstagramを始めた。

意見 2 : 本校のホームページには部活動の状況も掲載されておりよい。部活動によっては動画も掲載されておりよい。Instagramでもリアルな情報を発信するとよい。

意見 3 : 探究エレメントにより、身につけるべき力が教科で細分化されておりよい。

⇒今後、探究エレメントのアンケートの結果を分析し、生徒はつけるべき力を明確化し、教員は授業改善に生かしていく。

意見 4 : 高校 3 年間でつける力が大学卒業後にも生かされるように目標を設定し、取り組んでいるところがよい。

意見 5 : 本校の探究学習の目標達成のため地域と連携し、生徒の力が引き出せるよう支援をしていきたい。

⇒本校の「恵那田舎塾」で地域人材を活用するため引き続き協力をお願いしたい。

意見 6 : 本校の取組みが強みになっており、中学校としても連携していきたいと考えている。

意見 7 : 探究エレメントのアンケート結果により、どのような力が育成されていくのか、どのように授業に組み込まれていくのか、これから大変楽しみである。

意見 8 : 探究学習と教科学習の両立を図っていくことは大変難しいことであるが、ぜひ 3 年間で結果が出るとよい。

⇒探究エレメントのアンケート結果を活用し、3 年間の成果を視覚的にもわかりやすく示していく。

意見 9 : スクールポリシーが分かりやすい言葉を使って表現できており、理解しやすくメッセージ性があるがよい。

意見 10 : 探究学習の取組みが 20 年以上に及び、教員も探究を続けており、その結果、本校の探究活動がキャリアにつながっている。中学校での探究学習と高校の探究学習につながっていくとよい。

⇒中学校での探究学習がより深まるように、中高生の交流ができるようにしたい。

意見 11: 本校の生徒はシャイなところが美德であるが、教員が生徒の良いところを引き出し、徹底的にほめて、自信が持てるように育てられるとよい。

⇒授業だけでなく行事においても生徒が主体的に活動できるよう働きかけ、生徒が自信を持てるようにしていきたい。

6 会議のまとめ

第 1 回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。

多くの委員から、本校の探究学習について評価が得られた。探究エレメントを用いた学習効果の視覚化に対し評価された。今後アンケートを定期的実施し、生徒が成長を実感し、自信が持てるようにするとともに、教員の授業改善に生かしていく。また、探究学習による効果を科学的に分析し、その結果を外部へ発信していく。

探究学習と教科学習の両立を目指すため、今後も教員は新たな教育方法を探究していく。